# 平成 29 年度 第６回小学校ゼミナール記録

2018 年 3 月 16 日(金)

於：広島大学附属小学校

司会・発表者：新田智子(広島大学附属小学校教諭)

参加者：新田智子(広島大学附属小学校教諭), 浦山大貴(広島大学大学院教育学研究科), 和田陸(広島大学大学院教育学研究科)

**1. 協議事項**

小学校算数科 第 5 学年　単元「比べ方を考えよう」における授業協議

**2. 授業の意図と協議内容**

本グループでは，2018 年 2 月 9 / 10 日(土/日)に広島大学附属小学校において開催された第 67 回初等教育全国協議会に関して，新田教諭による実践，第 5 学年算数科/単元「比べ方を考えよう」の事後検討が行われた．本授業は，「プロポーションの法則を見つける」という課題を通して，実際に集めたデータをどのように整理し，まとめていけばよいかを考えるという内容であった．協議内容としては，授業の大半が「データの平均をとる」という整理の仕方の是非について費やされたことに関する反省が主となった．授業者の意図としては，データの整理方法として「データの割合をとる」という手法が生徒の中から出ることであったため，どのようにすればその案が出ていたかという事も同時に話し合われた。

**3. 議論要約**

「データの平均をとる」という整理方法の是非に時間が費やされたことについては，今回のデータをプロポーションの法則に変換する際に，平均をとることにあまり意味がないということを生徒があまり実感していないまま話し合いが進んでいたことが反省として挙げられた．意図として割合に持っていくならば，割合という意見を何とか出して，割合と平均の比較で考えさせるという手立てもあがった．

また，反省として外れ値を除外するという活動が生徒の中で割合という考え方を除外してしまった一つの要因だったのではないかという意見もあがった．実は生徒の中では「プロポーションの法則を見つける」という課題を解決するために，それぞれが「プロポーションの法則になり得そうなもの」を頭の中に設定してしまっており，その結果仮説検定のような問題解決方法になってしまい，外れ値を取り除くという活動が，生徒にとって都合の悪いデータを取り除く活動になってしまったのではないかという指摘があった．

実際の授業後のプリントに「割合」という言葉が見られたのは二・三人であったが，グループワークや机間指導の過程で割合の考えを持った生徒に発言をさせたり共有すれば授業の展開は異なってきたのではないかという議論になった．

(文責：西 宗一朗　和田 陸)